

# 平成28年度「全国学力・学習状況調査」の調査結果について

平成28年12月  
江別市教育委員会

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	第6学年	18	960
中学校	第3学年	8	1,011
合計		26	1,971

### 3 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ・主として「知識」に関する問題～国語A、算数・数学A
- ・主として「活用」に関する問題～国語B、算数・数学B

(2) 質問紙調査

- ・児童生徒に対する質問紙調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等
- ・学校に対する質問紙調査～指導方法に関する取組、教育条件の整備の状況等

### 4 調査方式

悉皆調査(対象は小学校6年生、中学校3年生)

### 5 調査期日

平成28年4月19日(火)

## II 結果の概要

### 1 教科に関する結果の概要

(1) 小学校

平均正答率は、国語A・B、算数A・Bで北海道を上回り、国語Aは0.4ポイント、国語Bは0.1ポイント全国を下回っています。算数Aは0.1ポイント全国を上回り、算数Bは0.7ポイント全国を下回っています。

(2) 中学校

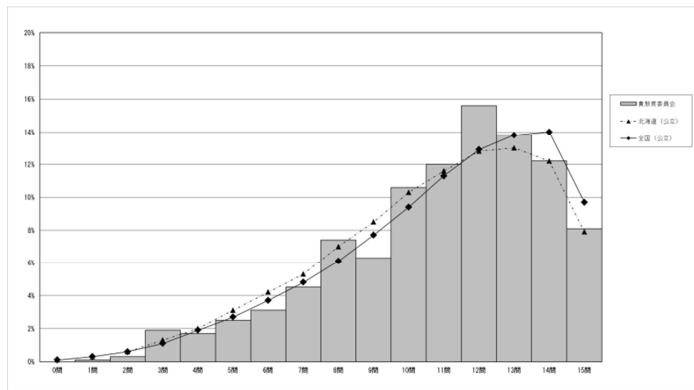
平均正答率は、国語Aは北海道を下回り、国語B、数学A・Bで北海道を上回っています。国語Aは0.9ポイント、国語Bは1.1ポイント、数学Aは0.1ポイント、数学Bは0.2ポイント全国を下回っています。

### 2 質問紙調査に関する結果の概要

- 平日に3時間以上テレビやビデオ見る割合は、小学校6年生は2.7ポイント全国平均を下回り、中学校3年生は1.3ポイント全国平均を上回っています。平日にテレビゲームを3時間以上する割合は、小学校6年生は1.1ポイント、中学校3年生は1.2ポイント全国平均を上回っています。
- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」、「礼儀正しいと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。
- 算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は、全国平均を大きく上回り、ICT(情報通信技術)を活用した授業が積極的に行われています。

### Ⅲ 各教科の結果

#### 1 小学校 「国語A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語A	平均正答数	平均正答率
江別市	10.9/15	72.5
北海道	10.7/15	71.0
全国	10.9/15	72.9

領域	設問数	江別市	北海道	全国
話す・聞く	1	80.2	77.5	79.2
書く	2	73.2	69.7	72.8
読む	2	77.8	77.5	78.5
伝統的な・・・	10	70.6	69.3	71.1

複数の領域にまたがる設問もあります。

#### <結果>

- 平均正答率は72.5%で、北海道を1.5ポイント上回り、全国を0.4ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「話すこと・聞くこと」が1.0ポイント、「書くこと」が0.4ポイント全国を上回り、「読むこと」が0.7ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が0.5ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

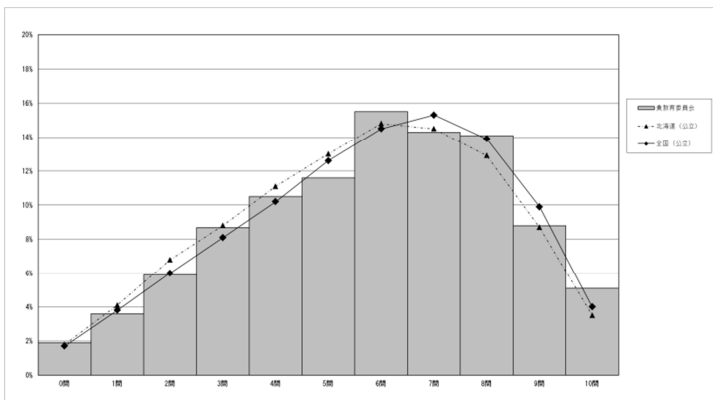
##### ■「登場人物の人物像を捉える」

登場人物の行動や会話などの叙述を基に自分の考えをまとめ、交流を通して複数の叙述を関係付けることで、人物像がより明確になることに気付かせるように指導することが必要です。

##### ■「ローマ字を書いたり読んだりする」

キーボードを使用してローマ字入力をするなど情報機器の活用や、日常生活でローマ字がどのように使用されているか調べるなど、ローマ字を読んだり書いたりする機会を増やす必要があります。

#### 2 小学校 「国語B」 <正答数分布グラフ>



国語B	平均正答数	平均正答率
江別市	5.8 /10	57.7
北海道	5.6 /10	56.0
全国	5.8 /10	57.8

領域	設問数	江別市	北海道	全国
話す・聞く	3	51.8	48.6	51.1
書く	6	52.5	51.5	53.4
読む	3	69.0	67.6	69.3
伝統的な・・・	0	—	—	—

#### <結果>

- 平均正答率は55.7%で、北海道を1.7ポイント上回り、全国を0.1ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「話すこと・聞くこと」が全国を0.7ポイント上回り、「書くこと」が0.9ポイント、「読むこと」が0.3ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

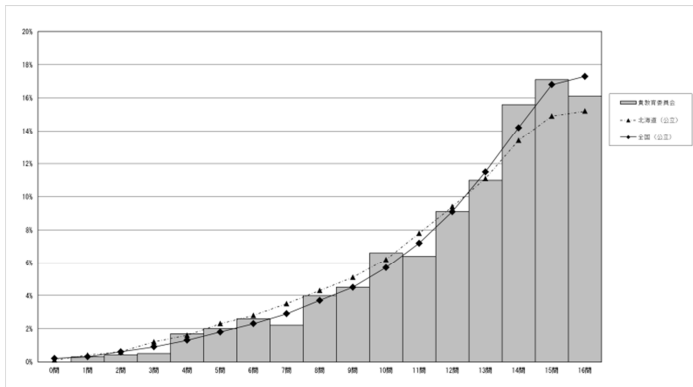
##### ■「図表やグラフを基に、分かったことを的確に書く」

自分の伝えたいことの根拠となる図表やグラフなどを活用することで、文章に説得力が生まれることを自覚させるように指導する必要があります。

##### ■「目的に応じて、複数の本や文章を選んで読む」

目的に応じて児童が必要な本や資料を自ら選ぶことができるように、考えさせるための時間や交流する時間を増やすなど計画的に指導することが必要です。また、本や文章を読む際は、必要な情報の手がかりとなる語句を基に、目次や索引、見出しなどを利用しながら情報を検索できるように指導する必要があります。

### 3 小学校 「算数A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

算数A	平均正答数	平均正答率
江別市	12.4 / 16	77.7
北海道	12.0 / 16	75.3
全国	12.4 / 16	77.6

領域	設問数	江別市	北海道	全国
数と計算	10	80.1	77.9	80.5
量と測定	2	77.8	76.1	77.0
図形	2	76.7	75.0	78.8
数量関係	3	70.3	66.5	68.5

複数の領域にまたがる設問もあります。

#### <結果>

- 平均正答率は77.7%で、北海道を2.4ポイント上回り、全国を0.1ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「量と測定」が0.8ポイント、「数量関係」が1.8ポイント全国を上回り、「数と計算」が0.4ポイント、「図形」が2.1ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

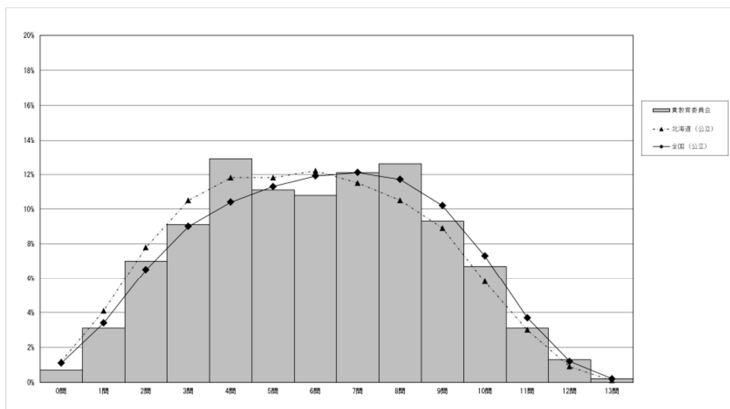
##### ■「直方体における面と面の位置関係についての理解」

立方体や直方体の学習では、向かい合う面が平行になることや隣り合う面が垂直であることを、立体と見取り図を対応させながら、平行や垂直な面が見取り図のどこに当たるかなど、関係性を確認する指導が必要です。

##### ■「示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表す」

数量の関係を適切にとらえるために、場面を図に表現する活動を設定し指導する必要があります。

### 4 小学校 「算数B」 <正答数分布グラフ>



算数B	平均正答数	平均正答率
江別市	6.0 / 13	46.5
北海道	5.8 / 13	44.5
全国	6.1 / 13	47.2

領域	設問数	江別市	北海道	全国
数と計算	6	43.4	41.7	44.4
量と測定	5	43.7	42.0	43.7
図形	3	36.1	35.1	36.3
数量関係	6	43.3	39.9	42.9

#### <結果>

- 平均正答率は46.5%で、北海道を2.0ポイント上回り、全国を0.7ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「数量関係」が0.4ポイント全国を上回り、「量と測定」が全国と同様、「数と計算」が1.0ポイント、「図形」が0.2ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

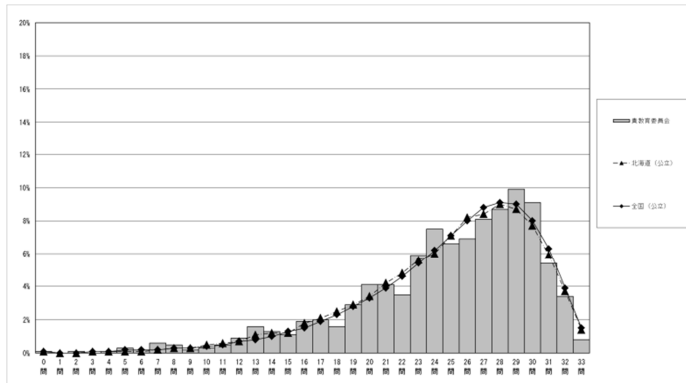
##### ■「用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述できる」

問題を解決した後、数値や形を変えた場合どうなるかについて、確認しながら理由を考える学習が必要です。

■「乗法や除法の式の意味を解釈する」

日常生活の問題を解決する際に、乗法や除法を用いて数量を求めたり、乗法や除法の意味を基に判断したりすることができるように指導することが重要です。

5 中学校 「国語 A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語 A	平均正答数	平均正答率
江別市	24.6 /33	74.7
北海道	24.8 /33	75.1
全 国	25.0 /33	75.6

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
話す・聞く	6	77.7	78.1	78.9
書 く	4	74.1	73.3	73.7
読 む	6	77.9	78.1	78.6
伝統的な・・	17	72.6	73.3	73.9

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結 果>

- 平均正答率は74.7%で、北海道を0.4ポイント、全国を0.9ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「書くこと」が0.4ポイント全国を上回り、「話すこと・聞くこと」が1.2ポイント、「読むこと」が0.7ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が1.3ポイント全国を下回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

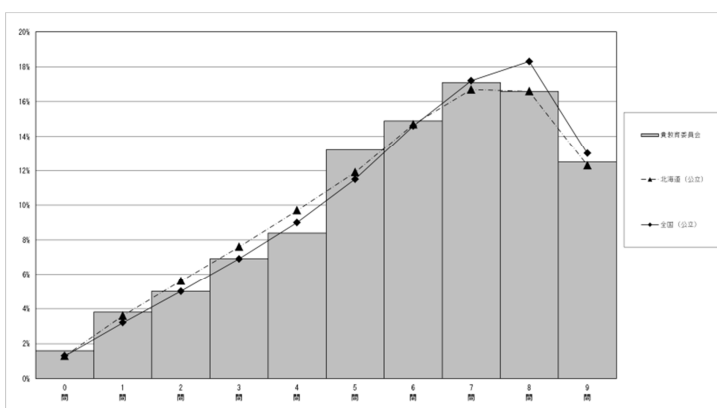
■「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」

伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように、見出しをつける際に読み手の立場で吟味したり、書き手の意図を説明したりするなどの学習活動が必要です。

■「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」

説明的な文章を読むときに、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けることができるように指導することが重要です。

6 中学校 「国語 B」 <正答数分布グラフ>



国語 B	平均正答数	平均正答率
江別市	5.9/9	65.4
北海道	5.8/9	65.0
全 国	6.0/9	66.5

領 域	設問数	江別市	北海道	全 国
話す・聞く	0	—	—	—
書 く	3	56.7	56.1	58.3
読 む	9	65.4	65.0	66.5
伝統的な・・	0	—	—	—

<結 果>

- 平均正答率は65.4%で、北海道を0.4ポイント上回り、全国を1.1ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「書くこと」が1.6ポイント、「読むこと」が1.1ポイント全国を下回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

■「文章の中心的部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える」

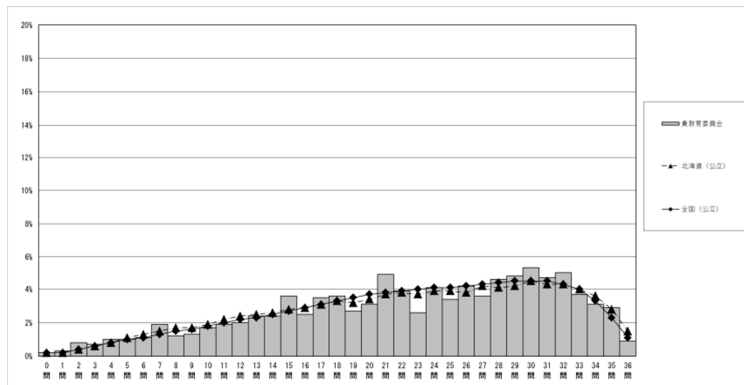
ちらしやパンフレットなどの実用的な文章を読む際に、目的に応じて、誰を対象としているのか、どのようなことを伝えよう

としているのかなどについて、話し合う活動を授業に位置付けて指導する必要があります。

■「目的に応じて文章を要約する」

目的や必要に応じて情報を選択し、見出しをつけながら選択した情報を整理するなどの学習活動を計画的に指導することが大切です。

7 中学校 「数学A」 <正答数分布グラフ>



棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

数学A	平均正答数	平均正答率
江別市	22.4/36	62.1
北海道	22.2/36	61.8
全国	22.4/36	62.2

領域	設問数	江別市	北海道	全国
数と式	12	65.7	64.7	65.9
図形	12	66.5	66.0	67.1
関数	8	53.3	52.7	52.0
資料の活用	4	55.5	58.7	56.5

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結果>

- 平均正答率は62.1%で、北海道を0.3ポイント上回り、全国を0.1ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「関数」が1.3ポイント全国を上回り、「数と式」が0.2ポイント、「図形」が0.6ポイント、「資料の活用」が1.0ポイント全国を下回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

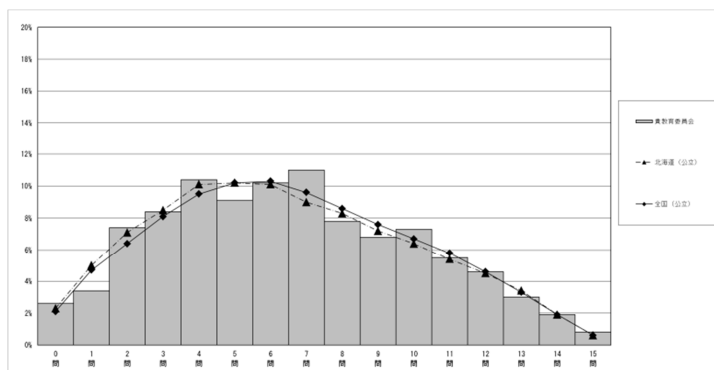
■「空間における直線と直線との位置関係（辺と辺とがねじれの位置にあること）の理解」

見取り図から直線や平面の位置関係を読み取れるようにするためには、立体模型の観察や模型を実際に触れる活動を授業に位置付けて指導することが大切です。

■「見取り図に表された立方体の角の大きさの関係をを読み取る」

見取り図と空間図形を対応させながら、辺の長さや角の大きさの関係などを確認する活動を通して、見取り図の特徴を理解し、図形の性質を読み取ったりすることができるように指導することが大切です。

8 中学校 「数学B」 <正答数分布グラフ>



数学B	平均正答数	平均正答率
江別市	6.6/15	43.9
北海道	6.5/15	43.3
全国	6.6/15	44.1

領域	設問数	江別市	北海道	全国
数と式	6	51.3	50.3	51.5
図形	2	30.9	31.9	33.3
関数	5	42.9	41.5	41.4
資料の活用	2	36.9	37.8	39.3

<結果>

- 平均正答率は43.9%で、北海道を0.6ポイント上回り、全国を0.2ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「関数」が1.5ポイント全国を上回り、「数と式」が0.2ポイント、「図形」が2.4ポイント、「資料の活用」が2.4ポイント全国を下回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

■ 「付加された条件の下で、新たな事柄を見出し説明する」

図形の合同について理解した上で、平行四辺形の辺や角などについて成り立つ性質を見出すことで、前提と結論を明確にして表現する活動が大切です。

■ 「与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現する」

目的に応じて資料を整理のうえ、資料の傾向を読み取り、日常生活における問題について考察した結果と、その理由を数学的な表現を用いて説明することができるように指導する必要があります。

## IV 質問紙調査の結果

### 1 「児童・生徒質問紙」

#### (1) 家庭の生活

##### ① 朝食を「毎日食べている」、「どちらかといえば毎日食べている」

- ・小学校6年生 95.5%で、昨年度より0.9ポイント低く、全国平均と同様。
- ・中学校3年生 93.0%で、昨年度より0.5ポイント低く、全国平均より0.3ポイント低い。

##### ② 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「どちらかといえば同じくらいの時刻に寝ている」

- ・小学校6年生 81.6%で、昨年度より0.8ポイント高く、全国平均より1.5ポイント高い。
- ・中学校3年生 72.4%で、昨年度より6.6ポイント低く、全国平均より2.8ポイント低い。

小学校6年生の就寝時刻については、昨年より改善傾向にあります。中学校3年生の朝食摂取、就寝時刻については、昨年度を下回っています。小学校6年生、中学校3年生はいずれも朝食を「あまり食べていない」、「全く食べていない」割合が4～7%おり、学校、家庭、地域等が連携して改善に向けた取組をさらに充実する必要があります。

#### (2) 自己肯定感

##### ① 難しいことでも「失敗を恐れなくて挑戦している」、「どちらかといえば挑戦している」

- ・小学校6年生 71.3%で、昨年度より4.6ポイント低く、全国平均より4.8ポイント低い。
- ・中学校3年生 68.2%で、昨年度より3.5ポイント低く、全国平均より1.4ポイント低い。

##### ② 自分には、よいところが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」

- ・小学校6年生 74.8%で、昨年度より5.1ポイント低く、全国平均より1.5ポイント低い。
- ・中学校3年生 64.1%で、昨年度より2.4ポイント低く、全国平均より5.2ポイント低い。

##### ③ 将来の夢や目標を「もっている」、「どちらかといえば、もっている」

- ・小学校6年生 82.6%で、昨年度より6.6ポイント低く、全国平均より2.7ポイント低い。
- ・中学校3年生 69.6%で、昨年度より2.4ポイント低く、全国平均より1.5ポイント低い。

##### ④ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことが「ある」、「どちらかといえばある」

- ・小学校6年生 87.8%で、昨年度より1.6ポイント低く、全国平均より1.5ポイント高い。
- ・中学校3年生 88.4%で、昨年度より0.7ポイント高く、全国平均より4.2ポイント高い。

##### ⑤ 先生は、自分のよいところを「認めてくれている」、「どちらかといえば、認めてくれている」

- ・小学校6年生 85.9%で、全国平均より3.3ポイント高い。
- ・中学校3年生 79.4%で、全国平均より1.4ポイント高い。

難しいことへの挑戦意欲や自己肯定感、将来の目標等については、小学校6年生、中学校3年生はいずれも全国平均を下回っています。学級みんなで協力し何かをやり遂げうれしく思う割合は、小学校6年生、中学校3年生はいずれも全国平均を上回り、また、先生はよいところを認めてくれていると思う割合は、小・中学生ともに全国平均を上回っています。市内の小・中学校では、一人一人のよさや可能性を見付けて伝えたり、集団における所属感や達成感を高める取組を進めていますが、自己肯定感や自己有用感の一層の醸成が必要です。

#### (3) テレビの視聴やゲーム

##### ① 平日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見る(テレビゲームは除く)

- ・小学校6年生 30.1%で、昨年度より7.1ポイント低く、全国平均より2.7ポイント低い。
- ・中学校3年生 25.4%で、昨年度より6.3ポイント低く、全国平均より1.3ポイント高い。

##### ② 平日にテレビゲームを3時間以上している(コンピュータ、携帯式ゲームも含む)

- ・小学校 6 年生 17.1%で、昨年度より 1.4 ポイント低く、全国平均より 1.1 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 20.1%で、昨年度より 1.7 ポイント高く、全国平均より 1.2 ポイント高い。

平日にテレビやビデオ・DVD を 3 時間以上見る割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに昨年度を下回っており、改善の傾向です。ゲームの時間については、小学校 6 年生は昨年度を下回り、中学校 3 年生は昨年度より増えています。テレビ等を見たりゲームを行ったりする時間帯や時間を家庭内で約束として決めるなど、家庭と一体となって学習時間の確保や望ましい生活習慣を確立する取組を進める必要があります。

#### (4) 学校の授業以外の勉強

##### ① 平日に、学校の授業以外に 1 時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校 6 年生 58.9 %で、昨年度より 3.1 ポイント低く、全国平均より 3.6 ポイント低い。
- ・中学校 3 年生 65.8 %で、昨年度より 0.2 ポイント低く、全国平均より 2.1 ポイント低い。

##### ② 休日に、学校の授業以外に 1 時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校 6 年生 58.3%で、昨年度より 0.4 ポイント低く、全国平均より 1.3 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 68.2%で、昨年度より 2.3 ポイント低く、全国平均より 0.4 ポイント高い。

##### ③ 家で、自分で「計画を立てて勉強している」、「どちらかといえば、している」

- ・小学校 6 年生 72.3 %で、昨年度より 0.6 ポイント高く、全国平均より 10.1 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 47.0%で、昨年度より 7.6 ポイント低く、全国平均より 1.4 ポイント低い。

家庭学習については、小・中学生ともに平日に学校の授業以外に 1 時間以上勉強する割合は、全国平均を下回っていますが、休日に学校の授業以外に 1 時間以上勉強する割合は、全国平均を上回っています。家庭学習は学習内容を確実に身に付けるために必要であり、学校からの宿題はもとより各家庭において学習に取り組む時間帯やテレビを見る時間、ゲームをする時間等について望ましい生活習慣を確立し、休日も含め毎日取り組むようにする必要があります。

#### (5) 学校生活

##### ① 学校に行くのは「楽しいと思う」「どちらかといえば、そう思う」

- ・小学校 6 年生 82.0%で、昨年度より 3.4 ポイント低く、全国平均より 4.3 ポイント低い。
- ・中学校 3 年生 74.2%で、昨年度より 5.7 ポイント低く、全国平均より 7.2 ポイント低い。

##### ② 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、「うれしかった」「どちらかといえば、そう思う」

- ・小学校 6 年生 87.8%で、昨年度より 1.6 ポイント低く、全国平均より 1.5 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 88.4%で、昨年度より 0.7 ポイント高く、全国平均より 4.2 ポイント高い。

学校に行くのは楽しいと思う割合は、小・中学生ともに全国平均を下回っていますが、学級みんなで協力し何かをやり遂げうれしく思う割合は、小・中学生ともに全国平均を上回っています。より分かりやすい授業の実施や行事等で協力してやり遂げる喜びを味わえるようにするほか、受容的、共感的な人間関係の醸成、集団における所属感や成就感、自己有用感を一層高めていく必要があります。

#### (6) 社会に対する興味・関心

##### ① 地域や社会で起こっている問題や出来事に「関心がある」、「どちらかといえば、関心がある」

- ・小学校 6 年生 70.3 %で、昨年度より 5.8 ポイント高く、全国平均より 0.3 ポイント低い。
- ・中学校 3 年生 64.8%で、昨年度より 6.8 ポイント高く、全国平均より 1.0 ポイント低い。

##### ② 新聞を「ほぼ毎日読む」

- ・小学校 6 年生 8.2%で、昨年度より 0.8 ポイント低く、全国平均より 0.7 ポイント低い。
- ・中学校 3 年生 8.4%で、昨年度より 0.8 ポイント高く、全国平均より 1.9 ポイント高い。

社会に対する興味・関心については、小学校 6 年生、中学校 3 年生は昨年度を上回っていますが、全国平均をやや下回っています。新聞を「ほぼ毎日読む」児童生徒は、「ほとんど、または全く読まない」児童生徒と比べ、国語、算数・数学の平均正答率が高い傾向にあり、社会の出来事に関心をもたせ、必要な情報を取捨選択する能力を育成する観点からも、新聞を読んだりニュース番組を見たりする習慣を身に付けさせることが大切です。

#### (7) 思いやり

##### ① 人が困っているときに、「進んで助けている」、「どちらかといえば、助けている」

- ・小学校 6 年生 81.7%で、全国平均より 2.9 ポイント低い。
- ・中学校 3 年生 81.4%で、全国平均より 2.4 ポイント低い。

## ② 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

- ・小学校 6 年生 85.5%で、昨年度より 2.9 ポイント高く、全国平均より 2.4 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 75.4%で、昨年度より 1.2 ポイント高く、全国平均より 0.6 ポイント高い。

「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに全国平均を上回っています。しかし、「困っている人を進んで助ける、どちらかといえば助けている」割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに 8 割を超えていますが、全国平均を下回っています。各学校で実施されているいじめ根絶に向けたアンケートや児童生徒主体の集会活動を継続するとともに、人への思いやりや規範意識をはぐくむ道徳教育を一層充実していくことが必要です。

## (8) 読書習慣

### ① 読書は「好きだ」、「どちらかといえば好きだ」

- ・小学校 6 年生 77.1%で、昨年度より 1.0 ポイント高く、全国平均より 2.5 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 77.3%で、昨年度より 2.6 ポイント高く、全国平均より 7.4 ポイント高い。

### ② 学校の授業時間以外に、「平日、1日30分以上読書をする」(教科書、漫画や雑誌を除く)

- ・小学校 6 年生 34.9%で、昨年度より 5.5 ポイント高く、全国平均より 1.6 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 34.0%で、昨年度より 0.7 ポイント高く、全国平均より 5.8 ポイント高い。

読書が好きな割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに全国平均を上回っています。各学校では、朝読書の実施やボランティアによる読み聞かせ、市の情報図書館司書の巡回等による図書館の整備など、読書環境の充実が図られています。

## (9) アクティブ・ラーニング(課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び)

### ① 授業で学級やグループの中で、課題に対して、自ら考え、自分から「取り組んでいる」、「どちらかといえば、取り組んでいる」

- ・小学校 6 年生 78.5%で、全国平均より 0.7 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 73.8%で、全国平均と同様。

### ② 授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを「工夫して発表している」、「どちらかといえば、工夫して発表している」

- ・小学校 6 年生 60.1%で、全国平均より 4.1 ポイント低い。
- ・中学校 3 年生 51.8%で、全国平均より 5.9 ポイント低い。

### ③ 授業で学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合い、発表する学習活動に「取り組んでいる」、「どちらかといえば、取り組んでいる」

- ・小学校 6 年生 77.9%で、昨年度より 0.2 ポイント高く、全国平均より 2.2 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 72.2%で、昨年度より 3.9 ポイント高く、全国平均より 2.9 ポイント高い。

授業で学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合い、発表する学習活動に取り組んでいる割合が、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに全国平均を上回っています。

思考力・判断力・表現力を高めるために、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びを深めるアクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりが求められています。各学校では、アクティブ・ラーニングの視点に立ち、子どもたちが、主体的に考え、判断し、表現する活動を意図的に設定する授業づくりに積極的に取り組んでいます。

今後も、各教科における言語活動の充実を図る授業実践を引き継ぎ、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を積極的に推進する必要があります。

## 2 「学校質問紙」

### (1) 学習態度、礼儀正しさ

#### ① 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」



- ・小学校 6 年生 88.9%で、昨年度より 20.5 ポイント高く、全国平均より 49.8 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 100%で、昨年度と同様であり、全国平均より 48.9 ポイント高い。

## ② 「礼儀正しいと思う」

- ・小学校 6 年生 77.8%で、昨年度より 35.7 ポイント高く、全国平均より 48.5 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 62.5%で、昨年度と同様であり、全国平均より 21.0 ポイント高い。

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」、「児童生徒は礼儀正しい」割合は、全国平均を大きく上回っています。各学校では、私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、授業開始のチャイムを守るなど、学習規律が丁寧に指導されており、江別市の小・中学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

## (2) 長期休業中の学習サポート

### ① 前年度に、延べ「5 日以上実施した」

- ・小学校 6 年生 66.7%で、昨年度より 12.2 ポイント低く、全国平均より 39.1 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 75.0%で、昨年度と同様であり、全国平均より 19.5 ポイント高い。

江別市の小・中学校では、夏休みや冬休みの長期休業中に全ての学校が 3 日以上「学習サポート」を実施しており、5 日以上実施している学校の割合は全国平均を大きく上回っています。学習サポートは、全教職員と市で配置している学習サポート教員(退職教員)で行われており、基礎学力の定着に大きな役割を果たしています。

## (3) 家庭学習の課題(宿題)

### ① 前年度までに、国語の指導として「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」

- ・小学校 6 年生 88.9%で、昨年度より 0.6 ポイント低く、全国平均より 2.4 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 50.0%で、昨年度と同様であり、全国平均より 3.4 ポイント低い。

### ② 前年度までに、算数・数学の指導として「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」

- ・小学校 6 年生 88.9%で、昨年度より 0.6 ポイント低く、全国平均より 1.2 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 75.0%で、昨年度より 12.5 ポイント高く、全国平均より 18.6 ポイント高い。

国語や算数の宿題をよく与える割合は、小学校 6 年生は全国平均を上回っています。中学校 3 年生は国語の宿題をよく与える割合は、昨年と同様の数値で、全国平均を下回り、数学については、昨年よりも割合が増加し、全国平均を上回っています。また、江別市の児童生徒は、家庭で「学校の授業の復習をしている・予習をしている」割合は全国平均を上回っており、各学校では、学習内容を確実に定着させるために、学校が家庭での学習課題を計画的に与えるなど、家庭における学習の習慣化を図る取り組みが推進されています。

## (4) ICT を活用した授業

### ① 前年度、算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用した授業を週 1 回以上行った

- ・小学校 6 年生 66.7%で、昨年度より 8.8 ポイント高く、全国平均より 41.5 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 37.5%で、昨年度より 12.5 ポイント高く、全国平均より 23.6 ポイント高い。

パソコンや電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小・中学校ともに全国平均を大きく上回っています。江別市では、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、すべての学級に電子黒板を設置するなど、ICT を活用した授業を推進しています。

## 参考引用文献

平成 28 年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例 (国立教育政策研究所教育課程研究センター)

平成 28 年度全国学力・学習状況調査報告書 (文部科学省国立教育政策研究所)